

ユーザーズマニュアル

Z106 シリコンボトル電気ケトル

このたびは、シリコンボトル電気ケトルをお買い上げいただきありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
また、箱に記載の保証書も大切に保管してください。

安全上のご注意 1. (必ずお守りください)

この「安全上のご注意」は、製品を安全にお使いいただき、危害や財産への損害を未然に防止するために、注意事項を絵表示しています。安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示ごとに区分し、説明しています。



この表示の項目事項を見逃して、誤った取り扱いをすると、「人が死亡または重傷を負う可能性が生じる事が想定される内容」を示しています。



この表示の項目事項を見逃して、誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容を示しています。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

安全上のご注意 2. (必ずお守りください)



警告

本機専用の電源プラグを使う

- 火災や故障の原因になります。
- 本機は12V車専用です。
- DC24V車(大型トラック、寒冷地仕様のディーゼル車など)にはご使用になれません。



アクセサリソケット電源から複数の電源をとらない

- 直接純正アクセサリソケットに差し込みます。
- ※延長ソケット・分配ソケット及び、AC/DC、DC/DCコンバーターでの使用はしない。
- 火災、故障、車両側ヒューズの断線の原因になります。



電源コードを傷つけない

- 火災、感電の原因になります。
- ※電源コードを加工したり、傷つけない。
- ※電源コードを熱器具に近づけない。加熱しない。
- ※電源コードを抜くときは、必ずプラグ部を手で持って抜く。



濡れた手で電源プラグに触らない

- 感電の原因になります。



- 1 -

右上へ続く ➤

安全上のご注意 2. (必ずお守りください)



警告

不安定な場所や振動の多い場所には置かない
●ボトル内に水またはお湯を入れた状態での走行はおやめください。
●落ちたり、倒れたりして、故障やけが事故の原因になります。
●お湯が流れ出てやけどのおそれがあります。
●火気の近くでは使用しないでください。火災の原因になります。



禁止

危険な場所には置かない
●運転の妨げになる場所には設置しないでください。事故の原因になります。



禁止

水で濡らさない
●ボトル内部やカップ以外を水につけたり、かけたりすると、故障や感電の原因になります。



禁止

分解や改造をしない
●故障や感電の原因になります。



禁止

水以外(牛乳、お酒、お茶類等)の物を絶対に入れない。氷を入れて保冷用として使わない。
●牛乳、お酒、お茶類等を入れますと、焦げつき・腐食・故障の原因になります。
●冷たい水や氷を入れますと結露が生じ、故障や感電の原因になります。



禁止

お車の運転中は、使用しない
●自動車事故の原因になります。
●やけどの原因になります。
●熱い湯を入れての走行も危険ですのでおやめください。



禁止

異常が起きたとき
●煙が出たり、異臭がするときは、電源プラグを抜いてください。事故や故障の原因になります。



強制

本体電源端子部(金属部)にピンを差し込んだりしない。ジャックに金属やホコリなどのゴミを付着させない
●ショートや感電・発火の原因になります。



禁止



注意

付属の電源プラグ以外は使用しない。付属の電源プラグを他の機器などに使用しない。
●発火・故障の原因になります。



禁止

シリコン部以下に、水を入れる
●シリコン部以上に水を入れるとボトルからこぼれ、車内や周囲を汚す原因になります。



強制

フタを開けたまま湯沸かししない。湯沸かし中はフタを開けたり、注いだり、移動しない。
●湯が飛び散り、やけどの原因になります。



禁止

水が入った状態で本機を移動させない
●水がこぼれて故障の原因となりますのでお止めください。



禁止

長期間使用しないときは、ボトルの水を捨てる
●長期間使用しないときは、衛生上、ボトルの水を捨ててください。
●再使用する場合は、新しい水をご使用ください。



強制

お湯が入っている時に傾けたり、シリコンボトル部をさわらないでください。
●水もれややけどをするおそれがあります。



禁止

お手入れする際は、必ず電源プラグ部・オスプラグ部を抜いてください
●感電やショートして発火するおそれがあります。



強制

長期間の閉め切った自動車室内には放置しない。直射日光のあたる所や発熱器具に近づけない
●本機の変形・変色や故障の原因になります。
●本機の使用・保管温度は、0℃から40℃の範囲です。



禁止

本機を持ち運ぶ時は、オスプラグ部を抜いて、フタを閉めて取っ手を持ってください
●落下したり、湯がこぼれたりしてけがややけどの原因になります。



強制

本機やボトルを落下させたり、強い衝撃を与えない
●破損や故障の原因になります。



禁止

本機を転倒させない
●転倒させますと湯がこぼれ、故障ややけどの原因となります。



禁止

注ぎ口に手を触れたりしない
●やけどをすることがあります。



禁止

フタを開けるときに出る蒸気に触れないように注意してください
●やけどの原因になります。



強制

備長炭などの炭を入れない
●故障の原因になります。



禁止

使用時以外はアクセサリソケットから抜く
●けがややけど、感電・ショートの原因になります。



強制

空だきをしない
●本機の熱変色などの故障の原因になります。
●本機底面のステンレス板が変色します。



禁止

本機は純正カップホルダーにしっかり載せる
●転倒して湯が流れ出てやけどをするおそれがあります。



強制

本機は自動車用(車内)です。業務用や船舶用には使用しない
●破損や故障の原因になります。



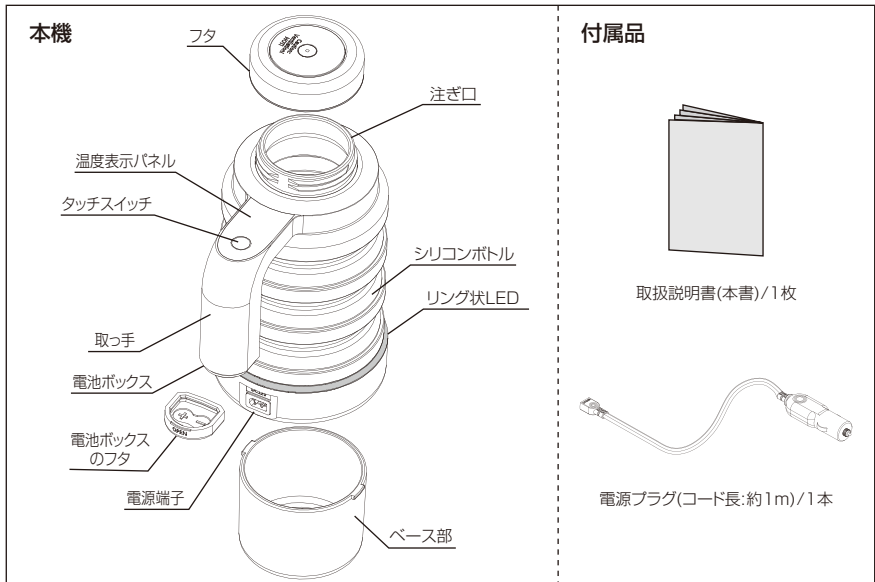
禁止

■本書(取扱説明書)に記載した警告・注意・指示・内容に反してご使用をされた場合の保証は致しかねますので、ご了承ください。

- 2 -

左下へ続く ➤

各部の名称



お使いになる前に

自動車に本機を設置

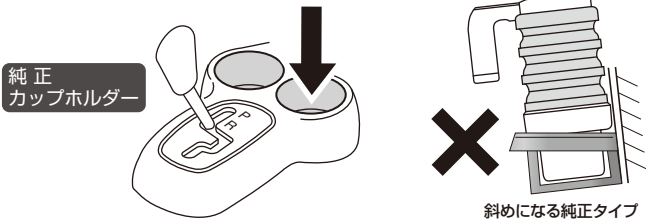
設置場所

- ①本製品を水平で安定した純正カップホルダーに、丁寧にインストールしてください。
- ②収納後に本製品が、傾いたり、グラツかないかご確認ください。

【ご注意】

◇下記に該当する純正カップホルダーには設置しないでください。

- ・ドア掛け、ドアポケットタイプ→電源プラグを使用するため、ドア開閉するとき危険です。
- ・マグカップが置ける大きいサイズのもの→倒れる危険性があります。
- ・移動するとぐらついたり、ホールド性が低く不安定なもの→倒れる危険性があります。



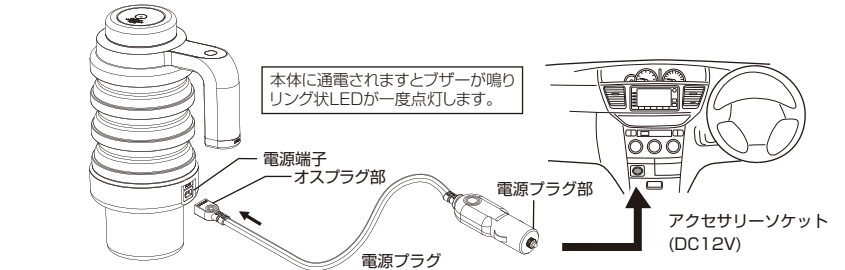
- 3 -

右上へ続く ➤

電源プラグの接続

■付属の電源プラグをアクセサリソケットに差し込み電源をとる

- アクセサリソケット内のゴミ、ほこり等をよく取り除き電源プラグ部を差し込んでください。汚れたまま電源プラグ部を差し込むと接触不良の原因になります。
- 本体の電源端子にオスプラグ部を奥までしっかりと差し込んでください。
- ※振動等で抜け落ちることの無いよう奥までしっかりと差し込んでください。



注意

- ◇必ず付属の電源プラグをご使用ください。
- ※コードを切断・結線してのご使用は、大変危険ですので絶対におやめください。
- ※運転に支障をきたさないようにコードの取り回しをあらかじめ確認をしてください。
- ※走行中に電源プラグ部の先端キャップが緩くなることがありますのでご使用前に増し締めを行ってください。
- ※電源プラグは振動などによりゆるむ場合がありますので、定期的に奥まで差し込んでください。
- ※お車のエンジンを切っても本製品の赤LEDが消えない車種(一部のホンダ車及び外国車)は、降車する際に必ず本製品の電源プラグをアクセサリソケットから抜いてください。
- ※電源プラグを抜く際は、必ず電源プラグ部の根元をしっかりと持って、アクセサリソケットに対し水平にゆっくり抜いてください。回転させたり、斜めにして無理に抜くと破損の原因になります。

使い方 1.

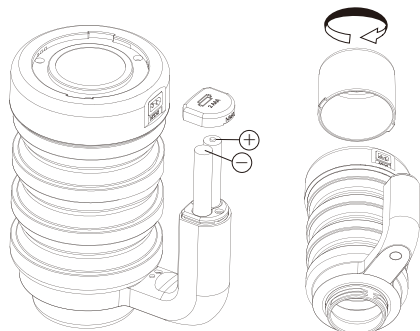
【ご注意】

- 初めてご使用する際は、事前にボトル内部を水またはぬるま湯でよくすすいでください。
- 初めてご使用する際は、お湯が臭うことがあります。ご使用とともに少なくなります。気になる場合は、2〜3回沸騰させた後、お湯を捨ててください。
- ご使用になるお車の取扱説明書をご覧になって、安全を確認の上、下記の作業を行ってください。

1. ご使用前の準備

フタを外してシリコンボトルを伸ばす 電池を入れ、底部にベース部を取り付ける

- ①電源が入っていない(電源プラグを抜いた状態)事を確認してください。
- ②フタを取り外し、底部を持って取っ手を上方向に引き上げてシリコンボトルを伸ばしてください。
- ※フタをしめたまま、シリコンボトルを伸ばしたり縮めたりしないでください。
- ③取っ手部分の電池ボックスのフタを取り、下から単4電池2本を入れてください。(＋とーの向きを必ず確認してください。)
- ※電池は付属しておりません。
- ④本機を手でしっかりと持って、底のベース部を時計回りに回して取り付けてください。



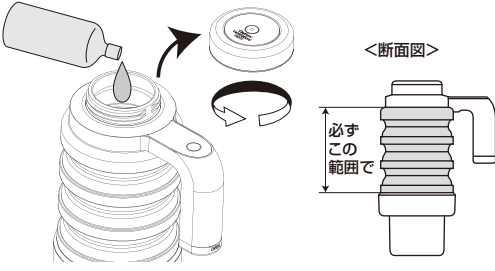
- 4 -

裏面へ続く ➤

フタを回して外し、ボトルに水を入れる

⑤フタを反時計回りに回して外してください。
⑥ペットボトル等の容器に水を入れ、シリコンボトル部分まで水を入れてください。

【ご注意】
・水を補給される際は運転を停止し、本機のジャックを電源端子から外してから行ってください。
・蛇口から直接、水を入れないでください。
・こぼれないようにゆっくりと入れ、本機が濡れたら拭き取ってから電源を入れてください。
・水を入れる際、シリコンボトル部を持たないでください。



フタを本機に取り付ける

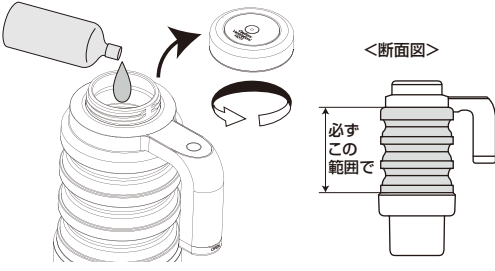
⑥フタを時計回りに回して締めてください。
⑦取り付けができましたら、カップホルダーに設置してください。

【ご注意】
・本機を手でしっかり固定してください。
・水を注ぐ際は、本機を傾けないよう注意して行ってください。水が入っている時に傾けますと水がこぼれます。
・100mlに満たない水量の場合、空焚き防止機能がはたらく場合があります。

フタを回して外し、ボトルに水を入れる

⑤フタを反時計回りに回して外してください。
⑥ペットボトル等の容器に水を入れ、シリコンボトル部分まで水を入れてください。

【ご注意】
・水を補給される際は運転を停止し、本機のジャックを電源端子から外してから行ってください。
・蛇口から直接、水を入れないでください。
・こぼれないようにゆっくりと入れ、本機が濡れたら拭き取ってから電源を入れてください。
・水を入れる際、シリコンボトル部を持たないでください。



フタを本機に取り付ける

⑥フタを時計回りに回して締めてください。
⑦取り付けができましたら、カップホルダーに設置してください。

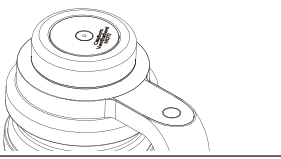
【ご注意】
・本機を手でしっかり固定してください。
・水を注ぐ際は、本機を傾けないよう注意して行ってください。水が入っている時に傾けますと水がこぼれます。
・100mlに満たない水量の場合、空焚き防止機能がはたらく場合があります。

ご使用方法 2.

1. 起動～湯沸かし終了

運転開始

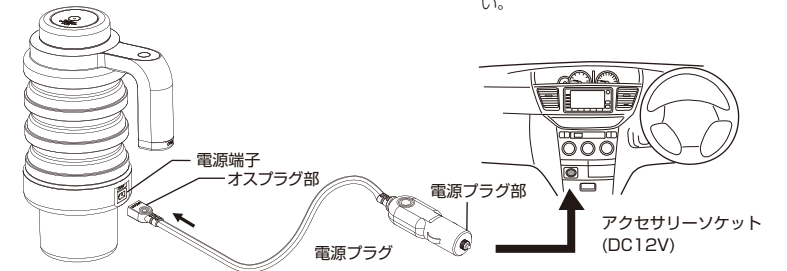
①フタがしっかりと閉まっていることを必ず確認してください。
注意：フタは蒸気を逃がすために完全密封ではございません。
傾けたり、シリコンボトル部を押したりしないでください。
水がもれます。



各電源を接続します

②本機にオスプラグ部を奥まで差し込んでください。
③電源プラグ部をお車のアクセサリソケットに奥まで差し込んでください。ブザーが鳴り、ケトル下部のリング状LEDが点滅します。

【ご注意】
●オスプラグ部には差し込む方向がありますので、必ず確認してから差し込んでください。
●電源端子が濡れていないか確認してください。



- 5 -

右上へ続く➡

タッチスイッチを操作し加熱します

●設定温度に達したときはブザーが2回鳴り、湯沸かしが終了します。
※お湯が沸くと自動的に電源が切れます。※表示部裏の信号センサーを隠さないようにスイッチを押してください。
※1回のタッチは1秒間押してください。連続で速く押した場合は反応しなかったり誤作動の原因になる可能性があります。
【タッチスイッチ操作】

電源を入れる


1回タッチ
電源が入り現在の水の温度がパネルに表示されます。

50℃設定


2回タッチ
パネルに50と表示され加熱を開始します。

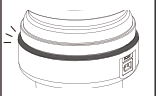
95℃設定


3回タッチ
※50℃表示の時にタッチする
パネルに95と表示され加熱を開始します。

【湯沸かし中に電源を切りたい時】

●加熱スタート後に途中でOFFにしたい場合は取っ手のタッチスイッチを長押し(3秒)すると温度表示が消え、約10秒後にLEDランプが消灯します。
●再加熱の際は、少し時間をおいてから行なってください。
●時間をおいても再加熱できない場合は、一度電源プラグを抜いてください。

【LEDランプ表示】


赤色に1回点灯
<通電>


赤色に点滅
<加熱中>


消灯
<湯沸かし終了>

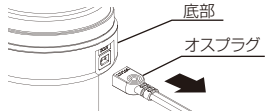
●水が沸とうするまでの時間は、水量・水温・車の室温など使用環境によって異なります。
湯温度 誤差含む95 ± 5℃ 最高温度到達時間 25℃の水 500ml/ 約25～35分
●保温機能はありません。湯沸かし完了後放置すると、お湯は冷めます。必要なときに必要な量だけ进行してください。
●表示される温度は、ボトル内部全体の温度ではございません。あらかじめご了承ください。

注意

使用環境、条件(気圧・電圧・水量・初期水温・車の室温)などにより、最高到達温度(95±5度)に満たす前に加熱が自動終了する可能性があります。その際は、水温が90度以下になってから再加熱してください。また、使用環境、条件により最高到達温度に達するまでの時間が異なりますので、ご了承ください。シリコンボトル部は高温になりますので触れないでください。加熱時にシリコンボトル部を押して圧迫しないでください。お湯がフタの蒸気穴からもれます。

本機からオスプラグを抜きます

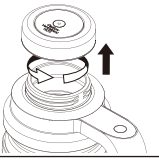
本機からオスプラグを抜きます。
※オスプラグを抜く際に、底部を手でしっかり押さえてゆっくり抜いてください。
※絶対にシリコンボトル部を持って作業しないでください。
※シリコンボトル部は高温になります。



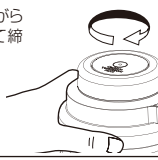
お湯を注ぎます

※オスプラグを抜く際に、本体を手でしっかり押さえてゆっくり抜いてください。
※シリコンのジャバラの間に湯が残っている場合がありますので十分ご注意ください。

注ぐとき


白い本体部を押さえながらフタを反時計回りに回して外してください。
※必ず取っ手を持ってお湯を注いでください。
※フタが熱くなりますのでご注意ください。

注ぎ終わったら


白い本体部を押さえながらフタを時計回りに回して締めてください。

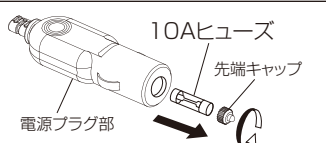
使用後は

残り湯を捨てて、シリコンボトル内を空にしてください。
【お願い】
●シリコンボトル内のお湯を残さないでください。放置すると変色・腐食・においの原因になります。
●ご使用後はお手入れしてください。p.7(お手入れ方法)をご確認ください。

ヒューズの交換方法

■電源プラグ部内のヒューズを交換する場合

●電源プラグ部にヒューズが入っています。もし切れた場合は、先端キャップを外し必ず同じアンペア数のヒューズに交換してください。
※指定数以外のヒューズを使用すると、トラブルの原因になります。

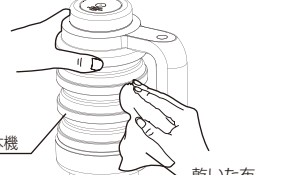


お手入れ方法

1. 本体の清掃

お手入れする際は、必ず電源プラグ部・オスプラグ部を抜き、残り湯を捨てて、本機が冷めてから行ってください。
本体は乾いた布または水で濡らし固く絞った布で拭いてください。

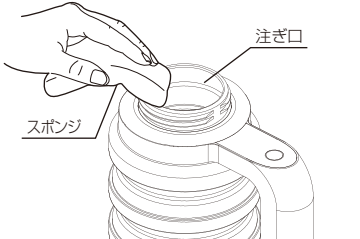
【ご注意】
●中性洗剤、アルカリ性洗剤、アルコール、ベンジン、シンナー洗剤等の溶液で拭いたりしないでください。
●本機の水洗いは絶対にしないでください。故障の原因になります。
●絶対に本体に水をかけないでください。故障の原因となります。



2. ボトル内の洗浄

注ぎ口から水またはぬるま湯を半分ぐらい入れ、やわらかいスポンジで拭き取った後、水ですすぎます。

【ご注意】
●ボトルの変色やにおいの原因になるので、残り湯は捨てて、こまめにお手入れしてください。
●ミネラルウォーターやアルカリイオン水(ミネラル分を多く含む水)を沸かしたときは、ミネラル分が付着しやすいため、よりこまめにお手入れしてください。
●スポンジでこすり過ぎますと傷が付く可能性があります。注意してください。
●汚れが落ちにくいときは、クエン酸で洗浄してください。(5.洗浄の仕方を参照)
※目安として1週間に1回、ボトル内の洗浄を行ってください。



3. ミネラル成分について

長く使用していると、水に含まれているミネラル成分(カルシウム・マグネシウム・鉄分など)がボトルに付着して次のようになることがあります。
●白い浮遊物が浮く ●乳白色、黒点、虹色など変色 ●赤さび状のはん点(もらいさび) ●ざらつき
ミネラル成分がたまる、お湯が出にくくなったり、湯沸かし中の音が大きくなる原因になります。

4. 保管に関して

長期間ご使用にならない時は、お手入れ後シリコンボトル内や各部分を十分乾燥させてホコリや高温多湿の場所を避けて保管してください。

5. 洗浄の仕方(クエン酸 1～3ヶ月に1回が目安) 洗浄用クエン酸は、薬局などで買い求めください。

①シリコンボトル内にクエン酸、約6gを入れます。
②水を満水目盛り(約480ml)まで入れて加熱します。
お湯は入れないでください。
③加熱終了後、約1時間放置します。1時間以上放置しないでください。
④オスプラグ部とフタを外してお湯を捨てます。

⑤やわらかいスポンジで汚れをこすり落とし、よくすすぎます。※シリコンボトル内部以外は濡らさないでください。
⑥汚れが落ちにくい時は、再度クエン酸を入れて同じ操作をしてください。
⑦クエン酸のにおいを取るために、水だけで通常どおりに再び湯を沸かし、お湯を捨てます。

故障と思ったら・・・？

■修理に出される前に今一度ご確認ください。

こんなときは	調べるところ	処 置
お湯が加熱されないとき。	オスプラグ部・電源プラグ部がきちんと差し込まれていますか？ 取っ手のデジタルが表示されていますか？	本機とオスプラグ部、車のアクセサリソケットと電源プラグ部をしっかりと差し込んでください。(5ページをご覧ください。) タッチスイッチをタッチしてください。
リング状LEDが点灯しない。	オスプラグ部・電源プラグ部がきちんと差し込まれていますか？ 車のエンジンは、かかっていますか？ 車外品の増設ソケットを使用していますか？ 電源プラグ内蔵のヒューズは切れていませんか？ 車側のアクセサリ(シガー)ソケットのヒューズは切れていませんか？	本機とオスプラグ部、車のアクセサリソケットと電源プラグ部をしっかりと差し込んでください。(5ページをご覧ください。) 車のエンジンをかけてください。一部のホンダ車や外車を除きエンジンをかけないとアクセサリソケットは通電状態になりません。 純正アクセサリソケットをご使用してください。 ヒューズをご確認ください。切れている場合は、同じ10Aヒューズを交換してください。(7ページをご覧ください。) ヒューズをご確認ください。切れている場合は、同じアンペア数のヒューズに交換してください。
タッチスイッチを押してもデジタルが表示されなし。	電池が切れていませんか？	表示が88と点滅した場合は電池残量がありません。電源プラグを抜いてから取っ手の電池を交換してください。
デジタル表示部に数字が表示されなし。	本体に12V電源が通電していませんか。本機オスプラグ、クルマのアクセサリソケットと電源プラグをしっかりと差し込んでください。(5ページをご覧ください。)	
95℃±5℃前に電源が切れる。	100mlに満たない水量で湯を沸かしていませんか？ 空だきしていませんか？	よく冷やした後、水を入れて加熱ボタンを「ON」にしてください。 電源プラグを抜き、水を入れてから電源プラグを差し込み、再度タッチスイッチを操作してください。空焚きの時はE8と表示されブザーが6回鳴り停止します。
湯に白い物が浮く。 ボトル内が汚れている。 壁面が白く見える。	水アカがボトル内に付着していませんか？ ミネラル成分が多い水やアルカリイオン水を加熱すると、ミネラル成分が結晶となり白く見えることがあります。 壁面が白く見える。	ボトル内をお手入れしてください。(7ページをご覧ください。)
お湯が出にくい。	シリコンボトル内・注ぎ口に水アカなどが付いていませんか？	シリコンボトル内・注ぎ口をお手入れしてください。(7ページをご覧ください。)
お湯が臭う。	水道水に含まれている消毒用塩素の量により、カルキ臭が残ることがあります。初めて使う時、しばらく使っていない時は樹脂などの臭い移ることがあります。ご使用とともに少なくなります。	
再加熱しない。	水が90℃以上になっていませんか？	90℃以下になってから再加熱してください。 電源プラグを一度抜いてから、タッチスイッチを操作してください。

※すべての項目で問題事項が見受けられなかった時、お問い合わせの販売店または、弊社お客様相談センターにて修理を承ります。

保証とアフターサービス

■保証書(梱包箱の側面)	●お問い合わせの際、お問い合わせ日、販売店名などの記入があるか確かめてください。内容をよくお読みの上、箱ごと保管してください。
■保証期間	●お問い合わせから6ヶ月間(本体のみ)。
■保証期間中の修理	●お問い合わせの販売店または弊社にご相談・お問い合わせください。必ず保証規定に従って、保証書の記載内容により修理いたします。
■保証期間後または期間内でも保証範囲外の修理となる事例	●お問い合わせの販売店または弊社にご相談・お問い合わせください。修理により、機能が維持できる場合は、お客様の要望により有料修理いたします。 ●誤った使用(水以外の牛乳やお茶等を使用した場合)が原因で故障になった場合にも、有料交換になります。 ●本機の故障の場合にも絶対に分解しないで、お問い合わせの販売店または弊社にご相談ください。
※修理可能期間	●生産中止から、一定期間は修理が行えますが、部品の在庫がきれた際は、修理をお受けできなくなる場合があります。

- 7 -

右上へ続く➡

- 8 -